



# さきやまへ

## 山辺地区立志式

### 3/4成人式を入山辺・里山辺で合同開催

山辺地区で数え年15歳の立志を祝う山辺地区立志式を3月10日に開催しました。今年度は入山辺公民館長や山辺中学校長を執行委員会に加え、入山辺と里山辺に住む69名の参加者を盛大に祝いました。地域に共に生きる一員として逞しく羽ばたいてほしいと大勢の地域の方の願いを受け、決意のことは（一部抜粋）が述べられました。

私は最初「立志」と聞いて、ちゃんとした大人、カッコいい大人を思い浮かべました。そして漢字一文字を「定」にしました。「定」は「さだめる」という意味があります。私には漠然とですが夢があります。その夢かなえるためには大学に行かなければいけません。なのでまずは「公立高校に入る」という目標をさだめました。

また私は優柔不断で「決める」ということが苦手なので、大人になつたらこの欠点をなくして物事をしっかりと定められる大人になりたいという思いも込めてこの文字を選びました。

最後に、この立志式を機に、やりたい仕事、未来を定めて自分の目標に向かって進んで行くという気持ちが大切だということ事を改めて考えることができてよかったです。

今日は、このような会を私た

平成30年3月1日現在
世帯数： 5,262 戸
人口： 5,816 人
男： 6,157 人
女： 11,973 人



決意のこたばを述べる大澤さん

山辺中学校 大澤 絵未理さん

僕の選んだ漢字は「輝」です。僕の名前は「三浦真輝」「真輝」は真実の「真」に輝くの「輝」です。僕の名の「輝」の意味は、なにごとにも一番輝いてほしいという意味が込められているそうです。でも輝くためにはかならず努力が必要です。

この人すごい輝いているな

## わか町紹介②

### 藤井町会 藤井沢ダム公園

藤井町の「奥座敷」にある藤井沢ダム公園について紹介したいと思います。

このダム公園のある藤井沢一帯は自然環境に恵まれて、蝶やカブトムシなどが多く生息しています。

ダム公園内の案内板に書かれています。1973年の『松本むしの会』の調査によりますと、日本には233種の蝶が生息しているとの

と思う人を一人思い浮かべてみて下さい。身近な人でも、テレビの人でも、今思い浮かべた人はかならず努力をしていると思います。

僕が思い浮かべたのは一人の友達です。この僕の友達とはとても輝いています。そこでふとその友達と過ごしてきた日々を思い返してみました。すると生徒会、部活、日常生活、応援練習でも常に全力で努力をしていました。

このように輝いている人達は常に努力をしています。

僕も日頃から努力して、せっかく親が愛情を込めてつけてくれた「真輝」、この名前の通り、それ以上の存在になり、誰よりも輝いてみせます。

山辺中学校 三浦 真輝さん



「ちょっと苦しい」

## 住民の健康意識を高めよう

福祉ひろばと公民館の共催で全6回の里山辺地区健康講座を企画し、延べ194名の方に参加いただきました。

無理なく運動して日常の健康意識を高める一助となるよう地区体力づくりサポーター

里山辺地区福祉ひろば 野澤 好子

や松本大学の学生にご協力いただき、自分の体力・筋力を知った上で効果的な運動を取り入れてきました。

体力づくりサポーターの皆さんからは継続して自分の体力づくりを行う大切さとともに顔見知りが増えて楽しみながら運動できることが講座の魅力との声が聞かれました。

来年度も「毎月第2金曜日は里健」として定期的に開催していきますので、無理なく運動したい方や運動を通じて仲間づくりをしたい方などお気軽にご参加ください。

ことで、この藤井沢にはダムの壁面にあるレプリカの国蝶オオムラサキ(写真参照)をはじめとして、日本の蝶の約半分にあたる117種もの蝶が確認されたとのことです。

このように自然豊かな中にある公園ですので、町会の皆さんはもとより、市内からも多くの人が訪れる憩いの場所となっております。



また、藤井町会の皆さんが、毎年6月

藤井沢ダム 桜、新緑、紅葉等、一年を通してきれいな藤井沢ダム公園に是非一度来てみて下さい。

藤井公民館長 今村 和守

から8月の毎週日曜日に交代で草刈り等を行って、公園の維持管理に頑張っています。

また、5年毎にダム公園で記念式典を行い、平成28年7月には15周年記念式典を盛大に行いました。

「まちづくりトーク」とは何か?

「里山辺地区まちづくりトーク」は、「みんなで将来の里山辺を考えよう」というテーマを掲げ、里山辺地区の住民の皆さんとお互いの立場を超えて自由に語り合う場で、年に1回開催しています。提案された道路等のインフラ整備や福祉に関する事案、参加者からの様々な提案に対し可能か否か全て必ず町会連合会が中心となり検討を重ね、その結果については、各町会長を通じ、更に回覧資料により地区住民に周知しています。今年度は、1月20日(土)に第4回目を開催しました。

当面の課題として

◆出川浅間線の延伸や地区内の事業や道路などの整備状況及び今後の見通しについて説明しました。更に「里山辺公民館の移転」や「あいさつ運動」、「里山辺地区文化財等全調査集の発刊」などの事業の説明をしました。

◆社会福祉協議会里山辺支会から「地域包括ケアシステム」など里山辺地区の福祉に関する課題と今の状況について説明しました。

◆参加者からの「松食い虫対策」「五千石街道の通勤通学時の混み合い」「中学生向けの軟式野球クラブ設立」などの意見や提案については、地区としてその場で

見解を述べ、即日検討に入りました。尚、詳細については、2月配布の回覧資料をご参照ください。

「里山辺地区まちづくりトーク」は、住民の皆さんと直接語り合うことができる大変貴重な場です。是非、多くの方が参加していただき皆さんの声をお聞かせください。



「まちづくりトーク」の会議の様子

まちづくりの基本は「あいさつ運動」から

平成26年度のまちづくりトークにおいて、「みんなで将来の里山辺を考えよう」と検討した結果「あいさつ運動を活発にする」が決まり、今年で4年目を迎えました。今年度も、この運動を活発化するために山辺小中学校の上級生や一般の方々にご協力いただきアンケートによる現状

調査を実施してみると、小中学生や大人は、以前と違って「誰ともあいさつできる」方向へと意識改革が進んでいます。啓蒙活動では、地区文化祭で山辺小学校のあいさつ運動の実態を紹介したり、標語募集にも積極的にご参加いただき、その中から優秀な作品6件を選出し、年度カレンダーに掲載します。地道な活動ではありますが、「こんにちは、気をつけて行ってらっしゃい」など、挨拶が一連の会話になつている日本のような例は、世界でも珍しいと言われています。

ー 継続は力なり ー

里山辺地区まちづくり協議会会長 市原 富美敏

「助けて」を言える地域づくり勉強会

全3回を終えて

今年度開講した勉強会が、2月22日をもって終了しました。松本大学の尻無洪教授を講師に、

里山辺の高齢化問題を課題として、公民館と地域包括センター共催で、町会、民生児童委員、町内公民館などの関係者にお集まりいただき、町会や個人ができることについて話し合いを重ねました。

第1回は、多方面にわたる「助けて」について事例をもとに考えて意見を出していただきました。

第2回は、1回目の話し合い

から承継の活用

平成20年より文化財を総合的に把握し継承するための歴史文化財基本構想の策定を国が推進し、市でも歴史文化財を活かしたまちづくりをめざし、平成25年より随時各地区で文化財調査を開始し、市全体の取りまとめが平成27年度をもって終了しました。里山辺地区ではその後も独自に補足調査及び検証を行ってきました。

地区内に伝わる有形無形の文化財は宅地開発や所有者の世代交代の中でその謂れや歴史的価値が継承されなくなり、また各家庭や地域に残る伝統文化も忘れ去られてしまう恐れがあるた

め、もう一度文化財等を詳しく調査して記録に残し受け継ぐことで地域の資源や地域の魅力を未来へ伝えることができます。

平成28年度から地区まちづくり協議会を母体に県の「地域発元気づくり支援金」を活用し「里山辺地区文化財等全調査集」の編纂を進め、本年度刊行に至りました。本調査集は地区の文化財等を網羅した内容であり、個人や町会はもとより小中学生や観光客にも活用いただけるように、地域テキストや出前講座、史跡等案内板に活用していきます。

住民の皆様が地域の魅力を楽しみながら発見すると共に、様々な場面で調査集を活用いただければ幸いです。

公民館主事 石川 和也

やアンケートから「公的な支援の内容」と「有償のサービス」について勉強しました。公的支援が受けられる条件に当てはまらず、有償サービスを受ける具体例を勉強し、近隣の日常支援が必要不可欠との意見とともに、プライベートな保護の問題も出てきました。民生児童委員に対応してもらおうのが良いとの意見も多数ありました。

第3回は、民生児童委員の職務について勉強しました。民生児童委員には様々な相談が寄せられますが、その相談を行政や専門機関に「つなぐ」役割を果たしていただく。しかし、どこにも「つなぐ」の無い相談が多く、苦慮している

公民館長 多田 健